

# simc News Letter

Sendai International Music Competition

2023年9月20日号

## 仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第4位ホン・ソンラン出演

宮城教育大学交響楽団第21回定期演奏会演奏評

正木裕美(音楽ジャーナリスト)



宮城教育大学交響楽団第21回定期演奏会

日時：2023年8月6日

会場：日立システムズホール仙台 コンサートホール

指揮：日比野 裕幸

ヴァイオリン：ホン・ソンラン

曲目：ドヴォルザーク：スラヴ舞曲 第1番 八長調 op.46-1

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35

ドヴォルザーク：交響曲 第8番 ト長調 op.88

芯を捉え各段に深みを増した音色、フレーズ間に見られる息遣いや間合いの取り方、より抒情性を帯びた歌心——前回の仙台国際音楽コンクールから1年が経ち、当時受賞者の会見で実感なさげな表情を浮かべていたホン・ソンランが、今日まで真摯に音楽に向き合い、自身のヴァイオリンを追求してきたことが伺える。

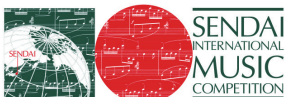
チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲は、彼女の演奏の“今”を知るに相応しかった。流麗な中にも所々テーマに和音を伴い力強さが求められる第1楽章、以前のホン・ソンランであれば音ののびやかさに欠け、オーケストラの音色に埋没してしまうことも考えられた。しかし今回はどうだろう。楽器の鳴らし方が向上し、響きのポテンシャルを大いに引き出した上で、それを力強い旋律の流れに乗せるすべを身につけている。第3楽章でもそれは同様で、以前のように細かいボウイングでトーンダウンすることもなく、素早い弓の返しにおいても音色がシャープに、かつ力強く響くようになった。コンクール時の印象でも、リズム感とキレの良さは備えていた。ただし早いパッセージを伴う強音や流麗な流れにおいて、それらが相容れないことを残念に思う場面が複数あったのも事実だ。コンクールと演奏会という状況の違いを加味したとしても、1年あまりでその点が改善されていることに、その成長ぶりが感じられる。

チャイコフスキーがわずかな期間で書き上げたヴァイオリン協奏曲は、技巧的難易度もさることながら、ロシアの風土を彷彿とさせる民族的な表現や抒情性に満ちている。中でもまるで内に湧き上がる情感を吐露するような第2楽章は、冒頭から、一見シンプルに見えるその旋律運びに、弾き手の息遣いや微細なニュアンスの捉え方を感じることができる。艶があり伸びやかで情緒豊かな音色はホン・ソンラン持ち前のものだが、そこに今回コンクール時は控えめだった表現意欲が加わり、旋律に深く寄り添いつつ、時に大きなディナーミクとともに自身の表現へ聴き手を惹き込んでいた。

コンクールを聴いていると、十分にテクニクはあり曲は仕上がっているものの、一歩踏み出して作品の構造や内在する意図を表現する意欲が希薄に感じられることが、ままある。それは若さゆえ、あるいは師の教えに忠実ゆえに、どこか他人行儀な表現に映るのかもしれない。ホン・ソンランもコンクール時、例えばモーツァルトの協奏曲イ長調 K219 やメンデルスゾーン協奏曲において、奇をてらわずに作品に対峙する様子が印象に残っているが、やや単調に映り、自身がどう提示したいか、その表出に乏しく感じられる場面も散見された。それが今回は一歩深化し、作品に寄り添い表現に対する意欲的な姿勢が音楽に反映されており、また嬉しい発見だった。

そんな彼女に呼応するように、日比野裕幸率いる宮城教育大学交響楽団も懸命に協奏を繰り広げた。第1楽章、ホン・ソンランのカデンツァの音色に導かれるように切々と繋いだ音色、第2楽章でソリストの音色を受け継ぎ、美しく旋律を掛け合った管楽器のソロ——奏者だけで85名を数える学生オーケストラが、ソウル国立大学で学ぶ年代のホン・ソンランの姿勢や音楽から、どれほどの刺激を受けた事だろうか。

(裏面に続く)



■お問い合わせ／公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel:022-727-1872 Fax:022-727-1873 Email:info@simc.jp URL:https://simc.jp

加えてホン・ソンランは、大学オーケストラやソウル・ユースシンフォニーオーケストラでコンサートマスターを務めている。昨年のコンクールではオーケストラとのずれが生じる演奏が複数見られる中、彼女の対話力は申し分なかった。今回の協演でもまた、時にオーケストラから情感を引き出すように牽引し、また時にアンサンブルと呼応し、柔軟な姿勢を見せていた。国際コンクールで入賞し、尚表現を磨く若きソリストを迎えたことは、今年 21 回目の定期を迎えたオーケストラへ、“協奏”の醍醐味をもたらしたに違いない。こうした瑞々しい協演が実現するのをもまた、コンクール開催当地の所以だろう。

### 「仙台クラシックフェスティバル 2023」にコンクール入賞者が出演します！



©T.Tairadate

**白井圭 (第1回ヴァイオリン部門第6位) & 津田裕也 (第3回ピアノ部門優勝)**

※トリオ・アコードとして出演されます。

2023年9月29日(金)「トリオ・アコード モーツァルト・メンデルスゾーンのパiano三重奏の世界」  
曲目：モーツァルト：ピアノ三重奏曲 変ロ長調 K502 ほか

2023年9月29日(金)「トリオ・アコード シューマンの室内楽の世界」 ※販売終了  
曲目：シューマン：ピアノ三重奏曲 第2番 ほか



©Christine Fiedler

**津田裕也 (第3回ピアノ部門優勝)**

2023年9月29日(金)「津田裕也 ピアノ・リサイタル ショパン&ベートーヴェン」

曲目：ショパン・ノクターン 第9番、第10番

ベートーヴェンピアノ・ソナタ 第23番「熱情」 ほか



**シャノン・リー (第7回ヴァイオリン部門最高位)**

2023年9月30日(土)「Legacy of Act 一受け継がれていくもの」 ※販売終了

曲目：ドヴォルザーク：ピアノ四重奏曲 第2番

2023年10月1日(日)「シャノン・リー × 仙台フィル 北欧の響き シベリウスの世界」 ※販売終了  
曲目：シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 ほか

### 「野島 稔メモリアル」を開催します。

仙台国際音楽コンクール第1回から第7回までピアノ部門審査委員長、2020年からは運営委員長を務め、2022年5月にご逝去された野島稔氏への敬意と感謝の意を込めて、「野島 稔メモリアル」として演奏会を開催します。



©YOKO SHIMAZAKI

**もっと教えて野平先生  
～鍵盤楽器の歴史と魅力～**

第9回仙台国際音楽コンクールピアノ部門審査委員長 野平一郎先生をお迎えし鍵盤楽器の変遷や現代ピアノの魅力のお話と、ポジティブオルガン・チェンバロ・ピアノの演奏をお楽しみいただけます。

日時：2024年3月30日(土)

会場：日立システムズホール仙台 コンサートホール

曲目：J.S. バッハ：平均律クラヴィーア曲集 第1巻より

J.S. バッハ：ゴルトベルク変奏曲 BWV988 アリア



©kisekimichiko

**中野りな&ルウォ・ジャチン  
デュオリサイタル**

2022年第8回コンクールの覇者、2人によるスペシャルコンサート。同一回の優勝者による夢の共演が、ここ仙台で実現します。

日時：2024年3月31日(日)

会場：日立システムズホール仙台 コンサートホール

曲目：

シューマン：ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ短調 op.105

サン＝サーンス：ヴァイオリン・ソナタ 第1番 二短調 op.75 ほか

チケットは11月15日(水) 発売です。

詳しくは仙台国際音楽コンクール公式サイトをご覧ください。

仙台国際音楽コンクール公式サイト

